

● 景観形成の目標像

周辺の自然環境に配慮した沿岸景観の形成

① 施設や空間の規模・計上・配置等の設定の考え方

盛土部については、地すべり等防止法を遵守したうえで、できるだけ土構造とすることで、自然景観との調和と法面緑化を図る

② 細部設計、材料等の選定の考え方

プレキャストアーチカルバートの両サイドの擁壁について景観に配慮したデザインとした。

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

プレキャストアーチカルバートを採用することでコスト縮減を図った

(事業前)



(事業後)



亀の瀬地すべり対策事業

- ・昭和34年10月地すべり防止区域の指定
- ・昭和37年から地すべり防止工事着手
- ・平成22年度工事完了

主な工事内容

排土工 90万m³ 水路工 2.7km 排水トンネル工 7.2km
集水井 54基 深礎工 170基 鋼管杭工 560本

■ 本事業は、上記事業における管理用道路の整備に伴う清水谷橋の橋梁架け替え事業である。

①が確認出来る写真



②③が確認出来る写真



●景観形成の目標像

周辺施設や背後のまちと一体となった、川の自然と調和した利用しやすい水辺の創出

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

- ・河岸は曲線主体の緩勾配とし、周囲の自然景観との調和、利用のしやすさ等に配慮した。
- ・水際は自然石による多孔質な構造とし、魚介類等の生息に配慮した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

- ・河岸勾配は1:3を基本とし、水際への経路部は1:5へと変化を持たせ、水辺へのアクセス、変化のある景観形成に配慮した。
- ・護岸に覆土を行いチガヤマットを敷設することで、郷土種による草原の復元を図った。
- ・木杭、袋詰め玉石工により親水エリアと本川との境界を明示し、安全性に配慮した。

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

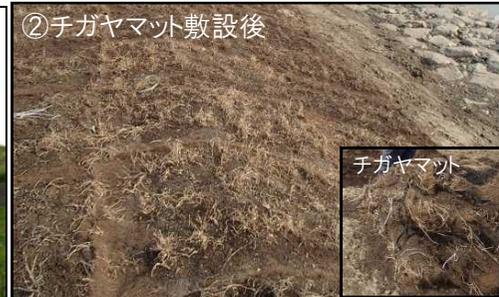
- ・巨石ステップの設置範囲を精査した。
- ・仮締切盛土や仮設土のうの中詰材に掘削土砂や他工事の発生土を流用した。



【八尾若林・太田地区かわまちづくり事業】
八尾市の地域計画と連携し、護岸整備等(L=165m)による河川管理機能向上により、親水性の確保を図る事を目的とした事業。

(事業後)

(事業前)



● 景観形成の目標像

「水と緑の豊かな環境づくり」として自然環境を保全・育成し、人々のやすらぎの場として機能するような親水性を活かした魅力的な水辺空間の創出を図る。

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

利用者の安全性・快適性に配慮し、現況の不陸を整正する。また、広場内の残置樹木の選定を行い、既存木の木陰を活用した快適な広場の整備を行うことで、既存の自然景観と調和させ安全性・快適性を確保する。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

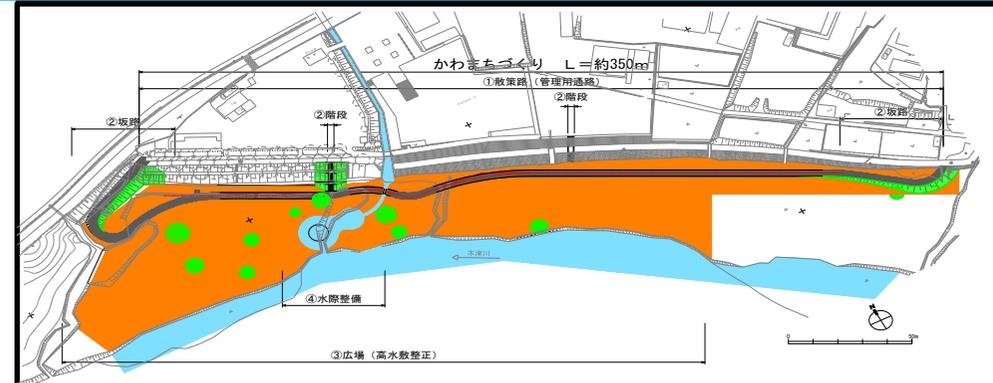
階段に用いるブロックについては表面擬石仕上げとし、自然景観と調和させる。

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

既存木の伐採本数を抑えることで処分費を抑制しコスト縮減と自然景観の保全を両立させる。

(事業後)

(事業前)



南山城村地区かわまちづくり整備事業:

村の中核施設が集中して隣接している地域に環境学習等のより安全な河川敷利用、水防訓練等多目的な活用を可能とするために河川管理用通路等を整備した。



● 景観形成の目標像

背後地に丘陵地及び田園が広がる景観に調和したデザイン

① 施設や空間の規模・計上・配置等の設定の考え方

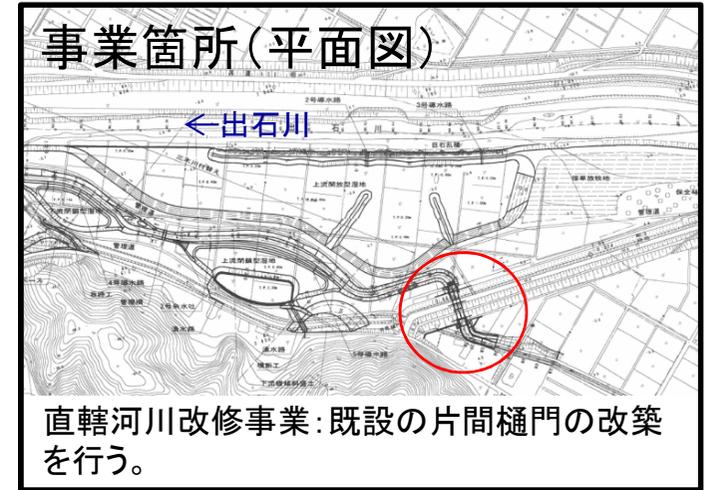
- ・上屋の屋根タイプを切妻屋根タイプとすることで、背後の山並みとの調和を図る。また、すっきりとした外観で周辺環境に馴染みやすい効果がある。
- ・階段の設置箇所に湿地管理用道路を近接させる。

② 細部設計、材料等の選定の考え方

- ・近傍の同種施設と同じ構造形式であり、河川全体としての統一性が図れる。
- ・周辺景観と調和を図り、かつコンクリート構造物として違和感のない色彩を採用する。

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

- ・切妻屋根タイプを採用することで、屋根に勾配が付き雨漏りの発生が少なく維持管理費用を軽減させる。



● 景観形成の目標像

城下町と調和した鉄塔の建替え

① 施設や空間の規模・計上・配置等の設定の考え方

通信回線の代替回線を確保した上で、部材耐力を確保するべく、景観と軽量化の観点から鉄塔高さパラボラアンテナの数量について検討を行った。

(既設鉄塔よりも約11m鉄塔高さを低くし圧迫感を緩和)

② 細部設計、材料等の選定の考え方

城下町地区となっている大野市景観条例に従い、指定色を選定。

(低光沢処理を施した塗装)

③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

載荷重の軽量化

(既設鉄塔よりも約11m鉄塔高さを低くしたことによるコスト縮減)

(事業後)

(事業前)



事業箇所(平面図)



大野局通信用鉄塔更新:通信鉄塔の建替え



●景観形成の目標像： 周辺環境と調和を図ると共に、港湾全体の景観に配慮した空間の創出

①施設や空間の規模・計上・配置等の設定の考え方

◆形状

- ・市が計画する緑地ゾーン及び野鳥園と一体的且つ、つながりのある空間を形成するため、換気所そのものの存在をアピールするような形状とはしない。
- ・隣接する「なにわの海の時空館」の形状(ドーム型)や色彩を考慮し、船舶や遠景眺望に対し、バランスを図るため、曲線面をデザインに用いる。
- ・換気所、煙突部の形状に配慮する。特にボリューム感、圧迫感を押さえるため、2本にすると共に円形とする。
- ・いろいろな方面からの見え方に配慮を行うため、**港湾内・外の多方面からの眺望**に対して調整を行い、全方向のデザインに対して整合性を図る。

②細部設計、材料等の選定の考え方

◆仕上材

- ・清潔感や、空の青さに溶け込む工夫を行うため、建物上層部や煙突部の仕上材選定に配慮する。
- ・近接する「なにわの海の時空館」との材質的な整合を図るために、部分的に同一的な素材を用いると共に、外壁材においては無機質的な材料を選定する。
- ・換気所そのものの存在をアピールする仕上材の選定は行わず、周辺に馴染んだ、換気所をイメージしないデザイン及び仕上計画を行う。

◆緑化

- ・**緑地ゾーン及び野鳥園との一体化を図るため、建物周辺に緑地帯を設ける。**さらに、WTCからの景観に配慮し、屋上緑化を設ける。

③コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

- ・外壁タイルについては一般汎用品を使用すると共に、自然石においても安価な産地材を採用し、コストの圧縮に配慮する。
- ・塩害に強く、耐久性に優れた材料を選択すると共に、メンテナンスが容易な設計を行う。

以上を長期間の維持管理も含めたライフサイクルコストの観点からコスト縮減を評価する。



換気所は供用を開始しているが、換気所周辺緑地は未整備。周辺整備が完了後に事後評価を実施する予定としている。

事業箇所	工事着工前	換気所供用後	完成イメージCG
 <p>事業概要: 全長約2.1kmの道路・鉄道併設の海底トンネル設置に伴う換気所整備</p>	 <p>H17. 3. 30時点 大阪建設工業新聞社提供</p>	 <p>H22. 3. 19時点</p>	